

報道関係者各位

2026年2月27日  
スマートニュース株式会社

## スマートニュース メディア研究所、埼玉県戸田市と共同で 小・中学生向け「メディアリテラシー学習指導案」を開発

情報モラル教育の授業実施の通知を受け、全国の教育現場へ無償公開

世界中の良質な情報を必要な人に送り届けることをミッションとするスマートニュース株式会社（東京都渋谷区、代表取締役社長 CEO: 浜本階生）の社内シンクタンクであるスマートニュースメディア研究所は、埼玉県戸田市教育委員会と共同で、小・中学生向けの「メディアリテラシー学習指導案」を開発しました。

本指導案は、当研究所のウェブサイト上で無償公開し、全国の教育現場に向けてダウンロード可能としています。2026年3月までに、戸田市全ての小中学校で実施を予定しています。2月26日には、戸田市立戸田第一小学校にて本指導案に基づく授業を実施しました。

### ▼メディアリテラシー教育 学習指導案

<https://smartnews-smri.com/literacy/literacy-3063/>

### 小・中学生向け「メディアリテラシー学習指導案」開発の背景

近年、児童生徒間の暴力行為等の動画がSNS上に投稿・拡散される事案が発生し、二次被害の懸念も指摘されています。文部科学省はこれを受け、各学校に対し、情報モラルに関する指導を令和7年度中に実施するよう通知しています（※1）。

スマートフォンやSNSの普及により、児童生徒は日常的に多様な情報に触れ、同時に発信者にもなる環境にあります。戸田市ではこれまでも、情報に出会った際に「立ち止まって考え、判断する力」を育てるメディアリテラシー教育に取り組んできました。

こうした社会的背景と学校現場の課題を踏まえ、戸田市教育委員会と当研究所は、「情報との向き合い方」をテーマとした学習指導案を共同で開発しました。指導案は、児童生徒が情報を吟味し、多角的に考える視点を身につけることを目的としています。

なお、当研究所は2025年にも戸田市教育委員会と連携し、中学生を対象にニュース接触とメディア信頼の変化に関する学術調査を実施するなど、継続的に協働してきました。今回の指導案開発は、そうした実証的な取組を踏まえた連携の一環です。

※1 SNS 上における暴力行為等の動画の投稿・拡散を受けた緊急の対応等について（令和8年1月30日付け文部科学省初等中等教育局長通知）[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/seitoshidou/1414737\\_00028.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1414737_00028.htm)

### 提供する教材内容

本取組では、学校現場で再現可能な教材として、以下の3点を無償提供します。

- メディア・リテラシー指導略案（授業設計を示した指導案）
- 授業スライド（実際に授業で児童生徒に提示する教材）
- 掲示用資料（授業のポイントを教室内に掲示できる資料）

いずれも45分授業で実施可能な構成とし、発達段階に応じた内容設計としています。

## 「メディアリテラシー学習指導案」の構成

### 1. 中学校向け

題材名:「考え方」を考えよう(中学校版)

ニュースやSNS投稿を題材に、情報を信じてよいか、拡散後にどのような影響が生じるかを考えます。「いつ・ふく(複数の情報源)・えび(エビデンス)・はつ(発信元)・ばい(バイアス)」という視点から情報の信頼性を検討し、多角的に判断する力を育みます。

### 2. 小学校高学年向け

題材名:「考え方」を考えよう(小学校・高学年版)

中学校版と同様に、「いつ・ふく・えび・はつ・ばい」の視点を活用しながら、情報の受け止め方を考えます。対話を通じて、自らの判断の根拠を言語化する構成としています。

### 3. 小学校低・中学年向け

題材名:「ほんとうかな?」と考えてみよう

身近な“びっくりする情報”を題材に、だれが言っているのかな?いつの話かな?ほかの人はどう思うかな?これを広めたらどうなるかな?といった問いを通じて、「本当かな?」と立ち止まる習慣を育みます。

## 小学校での授業実施の様子

2026年2月26日、戸田市立戸田第一小学校にて、本学習指導案に基づく授業を実施しました。児童生徒は情報を広めた場合の影響について話し合い、多角的な視点から情報との向き合い方を考えました。



ニュースを例示しながら情報の受け止め方を考える指導(戸田市立戸田第一小学校)



情報を広めた場合の影響について話し合う児童生徒(戸田市立戸田第一小学校)

### 継続的な教材開発の取り組み

当研究所は、学校現場で活用できるメディアリテラシー教材の研究・開発・無償提供に継続的に取り組んでいます。2026年2月には、総務省とプラットフォーム事業者等による官民連携プロジェクト「DIGITAL POSITIVE ACTION(DPA)」が主催する「DIGITAL POSITIVE ACTION AWARDS 2026」において「School賞」を受賞しました(※2)。受賞教材「SNSのアルゴリズムを体験しよう」は、児童生徒がアルゴリズムの仕組みを体験的に学べる内容が教育現場で評価されたものです。今回の戸田市との取組も、学校現場の課題に即した実践的な教材開発の一環です。

※2 スマートニュース メディア研究所、「DIGITAL POSITIVE ACTION AWARDS 2026」にてSchool賞を受賞  
<https://about.smartnews.com/ja/news/2535.html>

### 今後について

本学習指導案(メディア・リテラシー指導略案、授業スライド、掲示用資料)は、全国の教育現場に向けて無償でダウンロード可能です。当研究所は今後も、学校現場と連携しながら、児童生徒が情報と主体的に向き合い、判断する力を育むメディアリテラシー教育の普及に取り組んでまいります。

### スマートニュース メディア研究所について

スマートニュース メディア研究所(所長・山脇岳志)は、2018年に設立されました。ニュースやメディアが社会や人々の役にたつためにはどうあるべきかをテーマに、メディアリテラシー教育の研究・実践や、世論調査などを行っています。

<https://smartnews-smri.com/about/>



#### スマートニュース株式会社について

スマートニュース株式会社は2012年6月15日の設立以来、「世界中の良質な情報を必要な人に送る」をミッションに掲げ、日本と米国でニュースアプリ「SmartNews(スマートニュース)」を開発、国内のニュースアプリとしては最大級のユーザー数を誇ります。2023年末からは初めてのサブスクリプションサービス「SmartNews+」を開始、子会社のスローニュースとともに、優れたジャーナリズムによって生まれた良質な報道や多様なコンテンツを一人でも多くの利用者に届けることに力を注いでいます。世界中の膨大な情報を日夜解析し続けるアルゴリズムと国内外の3,000媒体以上ものメディアパートナーとの強力な提携関係のもと、スマートデバイスに最適化された快適なインターフェースを通じて、良質な情報を一人でも多くの利用者に効果的に届けることで、これからも社会に貢献していく考えです。<https://about.smartnews.com/ja/>

本件に関する報道関係者からのお問合せ先  
スマートニュース メディア研究所 研究員 長澤江美  
[smri@smartnews.com](mailto:smri@smartnews.com)